

コレクション展 2018- II
コレクション・ハイライト +
「特集 1：キノコ雲のある世紀」「特集 2：祈り」

広島市現代美術館ではコレクション展 2018- II を開催します。本展は優品を選びすぎた前半の「コレクション・ハイライト」と、「キノコ雲のある世紀」「祈り」と題した後半の特集展示により構成されます。

●コレクション・ハイライト

当館のコレクションを代表する重要な作品を紹介。今回は 20 世紀の現代美術の潮流を牽引した作家たちによる作品を紹介します。

【出品作家】(予定)

クルト・シュヴィッターズ、ジャン・アルプ、ヘンリー・ムーア、アルベルト・ジャコメッティ、カレル・アペル、レオン・ゴラブ、工藤哲巳、三木富雄、高松次郎、中西夏之、荒川修作、篠原有司男、白髪一雄、元永定正、ドナルド・ジャッド、フランク・ステラ、饜嘔、アンディ・ウォーホル

●「特集 1：キノコ雲のある世紀」

本特集では、ヒロシマを象徴するイメージのひとつとしての「キノコ雲」の表現に着目します。

キノコ雲と呼ばれる、原爆投下直後に発生した巨大な雲（原子雲）は、ヒロシマの惨禍を物語るアイコンとして、よく知られているといえるでしょう。爆音とともに空に出現したキノコ雲は、各所から撮影された象徴的な写真は残っているものの、その姿は捉えがたく、ゆえに様々な形で表されてきたといえます。

【出品作家】(予定)

浜田知明、井上覚造、前田常作、今井俊満、司修、絹谷幸二、横尾忠則、岡本太郎、殿敷侃、宇佐美圭司、フリッツ・イーチェンバーグ、フレッド・トローラー、マルコム・グリア、ヴァレリー・ベティス、アラン・リッジ、田中一光、蔡國強、ヘンリー・ムーア、デイヴィッド・リヴァレット、松本昶、村上隆、奈良美智

●「特集 2：祈り」

「祈り」という行為や概念は、作品としてどのように視覚的に表されるのでしょうか。特集 2 では、祈りの対象として制作された像や慰霊碑の模型、静謐な祈りが込められた作品をはじめ、「ヒロシマ」の記憶が刻まれた作品を紹介します。

【出品作家】(予定)

榎倉康二、芥川永、白髪一雄、イサム・ノグチ、村上友晴、岡部昌生、荒木高子、山本正道、鳴剛

開催概要

【会期】 2018年6月30日(土)～10月21日(日)
【開館時間】 10:00-17:00 ※入場は16:30まで
【休館日】 月曜日 ※祝休日・8月6日にあたる場合は開館し翌日休館
【観覧料】 一般 300 (250) 円、大学生 200 (150) 円、
高校生・65歳以上 150 (100) 円、中学生以下無料
※()内は30人以上の団体料金



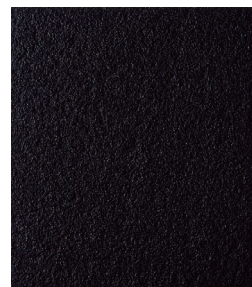
蔡國強《キノコ雲のある世紀：20世紀のためのプロジェクト（マンハッタン）》1996



篠原有司男《オートバイ X-50》1975-82



宇佐美圭司《きのご雲の上で》1988



村上友晴《祈り》2002

広島市現代美術館（学芸担当：角 広報担当：後藤、鈴木）

〒732-0815 広島県広島市南区比治山公園 1-1

TEL/ 082-264-1121 (代表) FAX/ 082-264-1198

E-MAIL/ hcmca@hcmca.cf.city.hiroshima.jp